

1 令和2年度の成果と課題

国語においては、活用で目標値を下回る学年があった。その中でも特に、資料を読み取って自分の考えを書いたり、自分の意見を支える理由を明確にして書くことに課題が見られた。そのため日常の授業の中で、書く活動を意識的に取り入れ、説明文や物語文を扱う際には、なぜそう考えたのかや、資料のどの部分に書いてあるのかを確認しながら進めていく必要があると考える。また、それぞれの意見や考えを聞きあう活動を通して、まずは自分の考えをもち、互いに伝え合う力や学びを深める力を培う必要があると考える。

2 今年度の調査結果の分析

- ・「話すこと・聞くこと」については、発表や話し合いの内容を聞き取る問題で目標値を下回る 学年があった。
- ・「読むこと」については、物語、説明文ともに目標値を下回る学年があった。特に、説明文の内容を読み取る問題で目標を下回る学年が2学年あった。
- ・「書くこと」については、2学年が目標値を下回った。普段から文章を書くときには、段落を意識させたり、自分の考えと理由を明確にして書くように意識させたりする必要がある。また、自分の考えをもつことが難しく、文章が書けない児童もいるので、考えを交流する場面を増やしたり、短い文章から書くことに慣れさせたりする必要がある。
- ・「漢字を読む」「漢字を書く」については、前年度までの漢字を正しく書くことができている児童が多く見られた。習熟の為の練習が身に付いているためと思われる。更に日常的に、習った漢字を用いて文章を書くことを意識させ、定着させていく必要がある。

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

○話の内容を正確に聞き取る力を養う。

低：「話の聞き方」等を掲示し、最後まで話が聞けるように意識させる。

中：話の聞き方を繰り返し指導し、聞く姿勢の習慣づけを図る。

高：話しの聞き方の基本、効果的なメモの取り方。目的意識をもって話を聞く姿勢について指導する。

○書く力を高めるために文章の構成力をつける。

全：各学年とも、年間を通して「書くって楽しいね」に取り組む。

低：文章を読む時に文の構成を意識して読むようにさせ、書く作業を定期的、計画的に設定する。（絵日記、観察記録文など）

中：日常的に文章を書く時間を取り入れ、段落を意識させたり、自分の意見とその理由を明確にして書くことを意識させたりして、書くことに慣れさせる。

高：文を読むときに文の構成に気を付けながら読ませる。主語述語を用いた短作文を書かせ、文の構成に慣れ親しませる。常体と敬体の使い方に慣れるようにする。

○言葉の力を高めるために語彙力をつける。

全：国語の教科書に掲載されている「言葉のたから箱」を活用する。

低：授業の中で、視写や簡単な文づくりをして正しい言葉の使い方や意味等を理解させる。

中：国語辞典や漢字辞典などを活用し意味調べを行う。漢字学習は家庭学習もあわせて指導し、定着を図る。

高：音読や読書、辞書を使う機会を増やす。学習した熟語、漢字はすぐに使えるような機会を設定する。

1 令和2年度の成果と課題

どの学年においても、ほぼ毎年全国平均からは下回る傾向にある。今年度よりタブレット端末が導入されたことにより、比較的低い結果であった。観察・資料活用の技能と社会的事象についての知識・理解にタブレット端末活用によるよい効果が期待できる。資料を読み取ったり、考察したりする力が弱かったが、最新で細分化された資料を見る機会が大幅に増え、その資料から何が読み取れるかを確認し、読み解く力を育てる機会が多くなったので、それを生かしたい。また、前学年や前単元の既習事項を振り返り、関連付け学習していく必要がある。

2 今年度の調査結果の分析

- ・「観察・資料活用の技能」では、一つの資料だけでなく、複数の資料から読み取る経験も増やすことを念頭に取り組み、タブレット端末の導入によって多くの資料に触れることができた。また、そこからこの資料は何を目的に作られており、その資料のどの部分を読み取る力の育成にも役立つものと考えられる。地図を読み取る場面では、地図記号や方位がわかるようにすることが課題であったが、授業の中で地図帳を開き活用する機会だけでなくインターネット上の地図を学習に生かし、記号を基にした記載方法を理解させる。さらに今までのように、地図をもとに考察したり土地の様子を推察したりできるように指導していく必要がある。
- ・「社会的な事象についての知識・理解」においては、教科書だけではなく、近隣の公共施設を利用したり、タブレット端末を活用したりする。社会科の学習をより身近なものとの認識につなげるため、自分たちの生活と関連付けたり、学んだ言葉や仕組みをまとめたりする活動を通して、知識、理解の定着を期待したい。

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

- 資料やグラフを的確に読み取らせ、活用する能力を身につける。
 - 中： 今までの資料集や紙の地図等を使った資料を読み取るときに、視点を与えて読み取らせる活動を入れ、タブレット端末での学習によって、場所と方位をすぐにその場で確認させたり、地形の様子などを読みとらせたりして資料に触れ、活用する機会を増やす。
 - 高： 今まで通り、手軽な地図帳や資料集の活用とともに、複数の資料から内容や目的、背景等を読み取る活動を多く取り入れる。特にタブレット端末を効果的に活用し、今必要な資料を取り出したリ、情報について考えたり話し合ったりする活動を増やし、資料活用の体験を増やす。国語学習での辞書の活用と同様に、場所や細かい情報がわからないときは地図で確認したり、資料を活用したりする習慣も今まで通り大事にしたい。
- 社会的な事象に関する知識の習得と理解力を深める。
 - 中： 国語科との関連をはかって、見たり、聞いたりした事実を抽象化して表現する練習をする。またタブレット短減からの情報も吟味しながら取り入れ、社会的な事象の意味を考える時間を十分にとり、「なぜ、どのように」と問い返して深めていく場を意図的に作る。学習した言葉を使い、使える言葉を増やし、まとめる活動を通して知識の定着を図る。
 - 高： 生活に関連している身近な事象についての興味関心を高めるために、新聞などの日常のニュースの情報や事象と結び付けた導入を取り入れ、情報の量と質についてより考え、判断できる力をつける。身近な生活の場面や、新聞・ニュースの報道などと関連づけて指導する。学習したことやそれを根拠に考えたことを新聞等にまとめる活動を取り入れ、知識の定着を図る。

1 令和2年度の成果と課題

一部の学年では、項目により目標値を上回ることができた。前年度、課題であった除法の余りのある計算や小数の計算の正答に少し改善が見られ、基礎力は上向いてきた。1学年から習熟度別学習を実施している。そのことにより、個々の課題に対する指導ができ、児童自身も質問しやすい環境により、安心して学習に取り組むことができた結果と考える。今後も、既習学習との関連性を考えさせながら授業展開をし、積み上げていける指導を展開していく必要がある。

2 今年度の調査結果の分析

- ・「数と計算」においては、分数において、1が分子の幾つ分になるか、数直線上で分数の大きさを比べる等につまずきが見られるので、具体物を用いたりしながら、分数の感覚をつかませ定着させていく。
- ・「量と測定」領域については、基本的な数量をイメージできるものをもたせ、場面に応じた測定ができるようする。
- ・「図形」領域においては、図形の性質を理解したり、特徴を捉えたりすることや、図形に対する見当をもつことにつまずきが見られる。図形の構成要素に着目して考えさせ習熟させていく。
- ・「数量関係」においては、求められている数値を正確に把握し、その為に必要な条件を整理して考える力を育てていく。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」が低い学年があり、興味関心を引き出せるような工夫をしていく。
- ・どの学年にも共通しているのは、「思考・判断・表現」が全国及び区に比べ低い。簡単な問題から取り組ませ、考える経験を積ませていく。

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

- 数の仕組みや概念の理解を高める。
 - 低：ブロックなどを用いた操作等の作業を取り入れ、数の概念を身に付ける機会を増やす。10進位取り記数法を理解させる。
 - 中：小数や分数などは、紙テープや数直線などで視覚化し、具体的なイメージが身につく機会を設定する。
- 加法、減法、乗法、などの計算の定着を図る。
 - 低：ブロックを使って具体的に操作して、計算の仕方を身につけさせる。繰り返し計算練習させることで習熟を図る。家庭学習に取り入れ、計算力の定着を図る。
 - 中：ドリルやプリントを通して繰り返し計算練習する機会を設定する。
 - 高：基本になる計算の仕組みを捉えさせる。練習問題を多く提示し、定着を図る。
- 量と測定の単位に対する量感を実感させる。
 - 低：具体物(ペットボトルや牛乳パック、定規など)の日常的に目にする量から、もともとなる量のイメージをつかみ、理解・習熟を図る。
 - 高：量や数の意味を考え、必要な数量を求めるための条件や要素に注目させ、定着につなげていく。
- 数量関係や図形の理解の定着を図る。
 - 低：定規をしっかり押さえて、何度も線を引かせるようにする。
 - 中：簡単な数量を数直線で表したり具体物を用いて比較させたりする。
 - 抽象的に表し、数量関係を具体化する。
 - 図形の性質を調べ、構成要素と比較させて実感につなげさせる。その上で、特徴を考えながら作図させる。
 - コンパスや分度器の使い方を、できる限り細かく指導していき、使えるようにさせていく。
 - 高：問題文を正確に読み取り、数量関係を式・図・数直線を用いて考える機会を多く設定する。

令和3年度 理科授業改善推進プラン

大田区立東蒲小学校

1 令和2年度の成果と課題

児童は実験をすることが好きである。しかし、実験器具の正しい使い方が身に付いていない児童が見られ、目的を考えて実験を組み立てたり、視点をもって結果を考察したりする力が不足している。低学年の生活科から自然事象をよく見たり、観察したことを記録し、話し合ったりして目的をもった学習の展開をしていく必要がある。

2 今年度の調査結果の分析

- ・基礎が2学年で目標値を下回っているが、活用はどの学年も目標値を上回っている。
- ・5年の「生命・地球」領域が目標値を下回っているのは、観察する時間を取りづらかったことから、身に付いていないと考えられる。
- ・6年の「物質とエネルギー」領域が目標値を下回っているのは、基本的な実験器具の扱い方を理解しきれていない児童が多いと考えられる。また、実験の目的や手順を明確にしたうえで行う必要があると考えられる。

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

- 身の回りの自然や事象について興味関心を高め、主体的に問題解決しようとする態度を養う。
低学年の生活科から観察させる視点をはっきりさせ、五感を使って対象をいろいろな角度から見るようにさせる。また、季節が変わると変化していく動植物に関しては、四季を通して実際に見たり触れたりさせ、実感を伴った理解へとつなげていく。
中：実物に触れたり生き物の世話をしたりすることで、日頃から身の回りの自然や事象に関する興味・関心を高める。
高：身近にある自然に目を向けさせたり、生き物を実物、スライド等で数多く紹介したりして、興味・関心をもたせる。
- 観察・実験の基本的技能を身に付け、問題解決の力を養う。
中：実験器具の正しい使い方を身に付けさせる。実験・観察、考察の視点を具体的に示していく。ノートにまとめる時間や話し合いの時間を多くとる。
高：実験器具の正しい使い方を身に付けさせる。実験・観察の目的や手順を明確にする。予想・結果・考察等をノートにまとめる指導と話し合う活動を繰り返し、予想・仮説、実験・観察、結果・考察の流れを定着させる。予想や仮説を、既習の事実や資料から関連付けて考え、話し合わせる。結果を整理し、考察していく過程をていねいに扱う。

令和3年度 音楽科授業改善推進プラン

大田区立東蒲小学校

1 児童の課題

- ・鍵盤ハーモニカやリコーダーなど楽器演奏の習熟に差がある。
- ・音楽の拍の流れを感じる事が難しい児童がいる。
- ・正しい音程やきれいな声で歌うことが難しい児童がいる。
- ・曲想を生かした表現にまで至らないことが多い。
- ・鑑賞では、感じたことを表現する語彙に乏しさが見られる児童もいる。

2 授業改善のポイント及び改善策

○基礎的・基本的な楽器の奏法の習熟を目指す。

低・中：技能の習得が難しい児童には個々の目標を設定し、個別学習の時間などを設け、必ず達成させる。一人一人のつまずきや課題に対して、具体的な声掛けや解決策を提示し、丁寧な個別指導を行う。また、児童同士の教え合いの場を設ける。

○拍感やリズム感を身に付け、表現活動の充実を目指す。

低：手拍子、身体表現、簡単な打楽器で、楽しみながら拍を感じることでできる活動を多く取り入れる。

高：鑑賞活動も充実させ、多様な表現のための技術を身に付けさせる。

○タンギングや発声の方法を習得する。

声の出し方、発声の仕方など指導する。簡単な音や音真似から取り組ませ、心理的に抵抗感なく学習できるようにする。

○思ったことや感じたことを表現するための語彙を増やす取り組みを行う。

低：鑑賞学習では、形容詞表等を取り入れ、児童が自分の思いを、自分の言葉で表現できることを目指す。書く活動を定期的に取り入れ、低学年のうちから「書くこと」に慣れさせる。

高：共通事項を軸にして、聴く視点を提示することで、楽曲の音楽的特徴と関わらせて鑑賞する力を身に付けさせる。自分の思いを言語化することが難しい場合には、いくつか例を提示し、自分の考えに近いものを選ばせるなど、すべての児童がねらいをもって鑑賞学習に取り組めるようにする。

令和3年度 図画工作科授業改善推進プラン

大田区立東蒲小学校

1 児童の課題

- ・細かい作業が苦手であり、指先などをうまくつかえない児童がいる。
- ・表現したいものが思いつかず、制作に取りかかるのに時間がかかる児童がいる。
- ・絵の具での着色がうまくいかない、苦手意識をもっている児童がいる。
- ・表現活動の途中で集中力が切れ、作品の完成度を高めることができない。

2 授業改善のポイント及び改善策

○道具の使い方など、技能の習得を目指す。

低・中：はさみの使い方、のりの貼り方等、作業のポイントを一つずついねいに指導していく。絵の具の使い方の基礎基本をしっかりと身に付けることができるよう使用時の確認と使い方の掲示をする。

○制作意欲の向上を図る。

低：参考作品の提示や考えたことを共有することで、イメージが思い浮かぶような導入を工夫する。

中：参考作品の提示や手順を大型テレビや板書でわかりやすく説明する。個に応じた指導を充実させていく。友達同士で教え合う時間を設け、意欲を高めていく。

高：友達同士の教え合いをすすめ、お互いに相談しあって学習に取り組ませる。

○作品を最後まで完成させる粘り強い力を身に付ける。

作品の完成した姿を見据え、目標をもって表現活動ができるように声をかけていく。製作途中の作品鑑賞を取り入れ、作品の完成度を高められるようにする。

1 児童の課題

- ・ ボールを投げる経験が少ない。
- ・ 自分の体を支えたり、回ったりする運動が苦手な児童が多い。
- ・ 運動の工夫ができない児童がいる。
- ・ きまりを守ったり、勝敗を素直に受け入れたりすることが苦手な児童がいる。
- ・ 思考力・判断力に乏しい。
- ・ 柔軟性、筋力、持久力に課題がある。

2 授業改善のポイント及び改善策

- 自分の体を支えるための運動を取り入れ、運動が苦手な児童の指導を工夫する。
 - 低： 器械・器具を使っての運動遊びで、多様な運動感覚を身に付けさせる。
 - 中： 多様な動きを取り入れた運動をさせる。
 - 高： 自分の体重を支えるだけの筋力をつけさせるため、力試しの運動やコアディネーショントレーニングを適宜取り入れていくようにする。
- 運動量を確保し、運動の工夫に努める。
 - 低： 工夫の仕方を例示し、楽しさを実感させながら、実践させる。また、授業の時間のみならず、休み時間などにも積極的に取り組ませる。
 - 中： 課題・めあてをもって運動に取り組み、評価と反省を何度か行う。また、体の動かし方やコツがわかる授業を行い、振り返りカードなどで学習を振りかえさせる。
 - 高： 授業の中では、特に学習カードを活用し、個別の課題の設定や評価につなげていく。また、児童同士の教え合いの場を設定し、児童一人一人の運動量を確保する。
- ゲームなどで思考力・判断力などを身に付け、ボールの操作などの技能の習得を目指す。
 - 低： ボールゲームを通し、楽しみながらボール操作ができるようにさせる。
 - 中： 運動技能面だけでなく、技能面を更に磨きをかけるための術を考えさせる。各運動のコツや上手になった理由、上手になりそうな具体的方法などを学習カードに毎時間記入させる。
 - 高： ボールゲームとともに、基礎体力を身に付ける縄跳びや走・跳の運動につながる動きを体育だけでなく日常的に取り入れていくようにする。また体育の時間だけでなく休み時間などでも積極的に外で遊ぶように指導する。

令和3年度 家庭科授業改善推進プラン

大田区立東蒲小学校

1 児童の課題

- ・裁縫道具やミシンの扱い方、調理器具の使い方など道具についての知識や、作品や調理の完成までの見通しの立て方に個人差が大きい。
- ・実習等、進んで取り組む児童が多いが、単元によっては関心の低い児童も見られる。

2 授業改善のポイント及び改善策

- 用具の使い方の習得を目指す。
 - ・ミシンや調理器具の基本的な扱い方を実習を通して把握させるため、扱う場面を増やす。
 - ・実習の機会を設ける。
- 他の教科等と関連付けて、指導に工夫する。
 - ・児童の日常生活と関連付けながら学習を進める。また、社会や理科の学習内容とも照らし合わせ、関連付けて指導することにより、興味や関心を高めていく。

令和3年度 生活科授業改善推進プラン

大田区立東蒲小学校

1 児童の課題

- ・日常生活において、虫や小動物等とかかわる経験が少ない。
- ・じっくりと観察をすることが難しい児童が多い。
- ・活動はするが、観察カードや記録カードにうまくまとめられない児童がいる。
- ・相手の立場に立った思いを想像するのが難しく、自己中心的な考え方をしてしまうことがある。
- ・季節感のない児童が多い。

2 授業改善のポイント及び改善策

- ・五感を使って実物にふれさせる機会を増やす。
- ・四季を通して、動植物を継続して育て、成長や変化に気づかせる。
- ・観察する視点を明確にし、どの部分をよく見ればよいかをはっきり示す。また、例を示し、具体的にどのようなことを書いたらよいかイメージさせる。
- ・観察カードに記録する際は、全体を描くのではなく、部分をよく見て描くようにする。
- ・地域や校内の人とのふれあいや遊びを通して、違った立場の人とのつながりを広げる。
- ・季節に関する行事や生き物を知らせ、活動に取り入れていく。

1 児童の課題

- ・ 自信がもてないことから、積極的に外国語に触れようとする子が少ない。
- ・ 全体的に聞き取りに関する内容に課題がある。日常会話において内容を理解できない。
(誕生日・好きな教科・買い物場面・道案内)
- ・ 英作文において、基本的な表現を用いて自分と相手との関係性を表現したり、自分のできる事等の表現に課題がある。

2 授業改善のポイント及び改善策

- ・ ALTが話した内容を児童が理解しているかを確認して、必要に応じて担任が日本語で補佐する等、児童が外国語の指示を聞いて主体的に学習に参加できるようにする。
- ・ ネイティブな英語においては、ALTに任せ、担任と連携を図る。
- ・ 児童が使う英語が他者に通用するという達成感を味わえる学習展開にする。
- ・ 児童が外国語活動に対する苦手意識を無くし、ローマ字やアルファベットを習得できるよう、掲示物等で外国語に触れる場面を増やし、学習活動が主体的に取り組める身近な内容のものを取り入れる工夫をする。
- ・ 外国語担当が連携を図り、外国語教材の充実を図り、ALTと担任とで授業の計画について打ち合わせをする。